遠隔教育による日本語教育

ー効果的なオンライン授業を探るー

日本大学大学院 総合社会情報研究科
保坂敏子

香港日本語教育セミナー2020 オンライン・セミナー
2020年12月12日（土）16:00～17:30

自己紹介

遠隔教育
（オンライン授業）
実践家

- 1989年～ 現在　留学生の日本語教育

- 2011年～ 現在　日本大学
  総合社会情報研究科（通信制大学院 ）
  文化情報専攻　言語教育研究コース

1998年創設

（Graduate School of Social and Cultural Studies :
Graduate Program in Distance Learning）

ポートフォリオ・システム（LMS）
（非同期型）

Web会議システム
（同期型）

対面＋オンラインの遠隔授業
（ハイブリッド/ハイフレックス型）

目次

- 遠隔教育・オンライン授業とは
- 遠隔教育のはじまりと現状
- オンライン授業のタイプ
- オンライン授業のデザインを支える理論
- まとめ

遠隔教育・オンライン授業とは

教育形態から見た遠隔教育

表1　時間と空間による教育形態の分類（鄭・久保田 2006）

空間 時間	同じ空間	違う空間
同じ時間	①既存の学校で行われる授業中心の教育	②テレビ会議を利用した教育
[illegible]	③自習室、実習室を活用し、[illegible]教育	④印刷メディア、放送メディア、eラーニングを使った教育

・教授者と学習者間に物理的距離・空間的制約が存在する

・教える行為と学ぶ行為がメディアを介して行われる

遠隔教育（distance education）

教育形態から見たオンライン授業

①と②を同時
➡ハイブリッド型
+③ ➡ハイフレックス型

表2 表1の改訂版（鄭・久保田 2006をもとに筆者作成）

空間 時間	同じ空間	違う空間
同じ時間	①既存の学校で行われる授業中心の教育	②Web会議システムなどを利用した教育
	③自習室、実習室を活用し、教育	④LMS（学習管理システム）、eラーニング、メール、掲示板などを使った教育

同期型

非同期型

・教授者と学習者間に物理的距離・空間的制約が存在する

・教える行為と学ぶ行為がインターネットを介して行われる

オンライン授業

遠隔教育の変遷

・第一世代 「通信教育（correspondenc
➡郵便を利用： 印刷教材
・第二世代 「放送教育」 ➡マスメディア
：印刷教材、ラジオ、テレビ、電話 ンス
・第三世代 「eラーニング」 ➡ICT利用
：インターネット、コンピュータ、衛星通信網、モバイルテクノロジー、
双方向ケーブルテレビ、テレビ会議システム、マルチメディア教材

学習者と教授者の
インターラクティブなコミュニ
ケーションが可能
＝対面と同等の質

オンライン授業

学びを止めない！
@COVID19

遠隔教育の理念＆意義：

「教育の機会均等・拡大」「生涯教育」に資する

遠隔教育・オンライン授業の
はじまりと現状

遠隔教育のはじまり

- ドイツ　1856年　フランス語の通信教育（郵便）
- イギリス　1858年　ロンドン大学　（郵便）
  1969年　オープン・ユニバーシティ（郵便・ラジオ）
- アメリカ　1874年　牧師の夏期学校（郵便）
  1892年　シカゴ大学（郵便 ➡ 無線・ラジオ）
- オーストラリア　1909年　遠隔教育学校　（郵便 ➡ ラジオ・テレビ＆無線）

校外生制度

- 日本　明治期　講義録(現早稲田大：1886～1956、法政大、中央大等）
  1947年　大学通信教育@学校教育法

日本の大学における遠隔教育の変遷

- 戦後（1947） ➡ 印刷教材による通信教育で学位取得が可能に
- 1998年 大学設置基準（通学課程）の改定
  - ➡ 通学課程で「遠隔授業」の実施が可能に
    ＝マルチメディアを利用した遠隔教育
    ＝同期双方向、教室での受講で30単位
  - ➡ 通信制の授業でも通学生と同じ遠隔授
    - ★通信制大学院修士課程の設置が

<2020年の緊急措置>
100%オンラインによる遠隔授業もOK

- 1999年 遠隔授業による単位の上限が60単位／124単位に
- 2001年 インターネットを利用した非同期双方向の授業の単位化が可能に
  - ➡ 通信制で卒業単位を全てメディア授業で修得可能に
  - ➡ 海外機関のインターネット授業の単位認定が可
    - ★2003年 通信制大学院博士課程の設置が決定

日本語教育におけるオンライン授業のはじまり

- 日本教育工学会（1984年創立） 大会論文集

  1995 「空飛ぶ教室プロジェクト ー電子メールを利用した日本語教育と教師養成の可能性と問題点ー」（石田）

  1995 「日本語学習を支援する試みについて ー電子メールの積極的利用とWWWの利用ー」（澤橋他）

- 『情報通信技術と日本語教育』（文化庁国語課 2003）

  情報通信技術（IT）を活用した日本 者会議報告書(1996～の成果)

事例： ITの授業での活用
衛星通信を使った遠隔教育
韓国のサイバー大学

➡オンライン授業の事例は少ない

英語教育におけるオンライン授業のはじまり

- 日本教育工学会（1984年創立）大会論文集

  1991　ISDNによる日豪の語学遠隔授業（若松他）

  1993　電子メールによる国際交流（中植雅彦）

  1996　インターネットを使った日米間コミュニケーション（久保田賢一）

- JACET（大学英語教育学会）ICT調査研究特別委員会

  2007年度＆2008年度　調査報告（大学での実践事例）

  ①学習・教授支援型　②自学自習型　③交流型

異文化交流実践
Cross-Cultural Distance Learning (CCDL)

遠隔教育の最近の動向 -withコロナ-@世界

新型コロナウィルスの感染拡大と学校教育@2020春

- 全国規模で学校を休校措置（3月4日時点　ユネスコ発表）

一斉休校➡15か国・地域（日本、中国、香港、マカオ、モンゴル、北朝鮮、
イタリア、ア
バ

学校に通えない子供
➡2億9050万人

一部休校　➡9か国・地域（ア
シンガポ

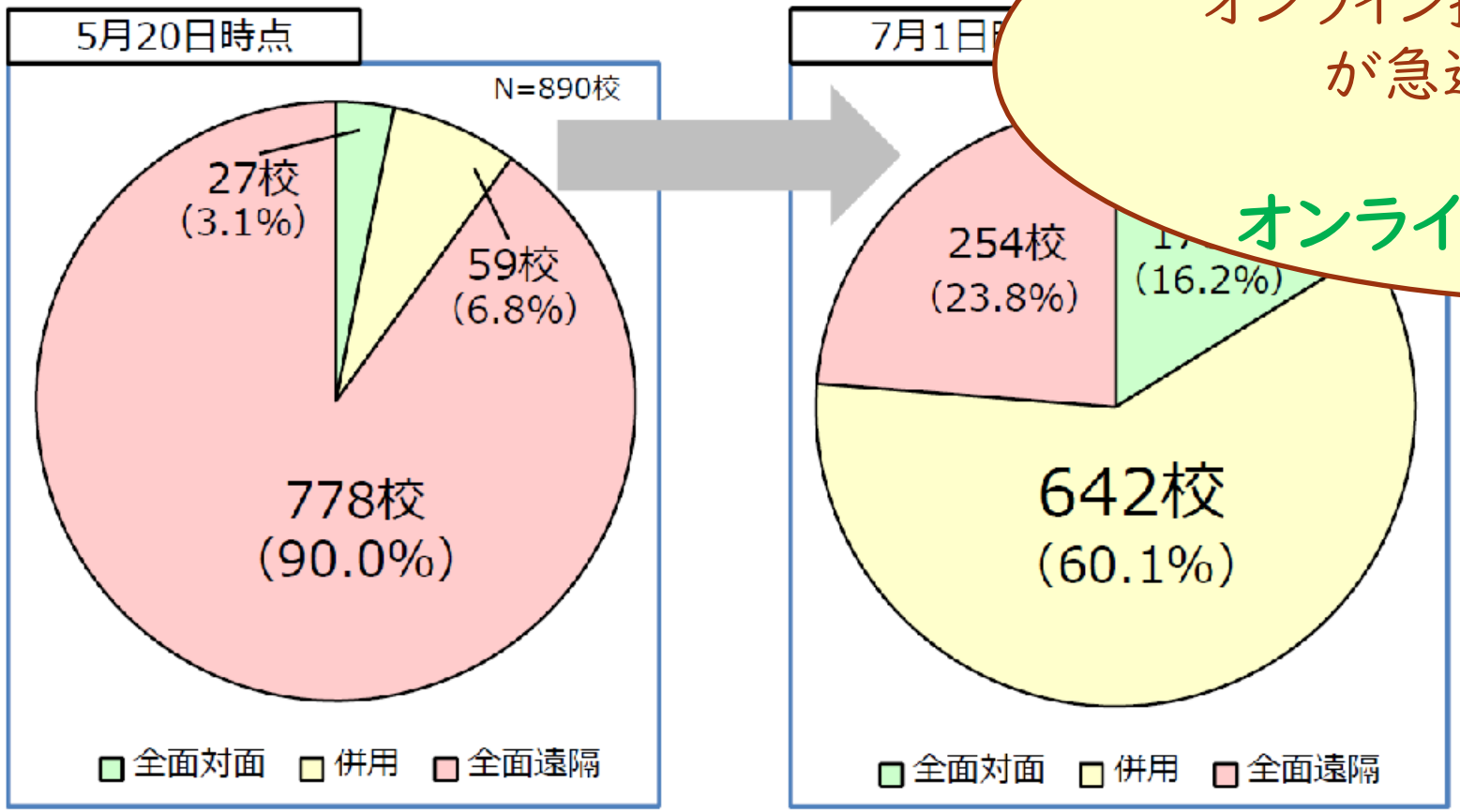
学校に通えない子供
➡+1億8000万人

<緊急措置>
Emergency Remote Teaching：ERT

@中国・香港等
➡授業が全てオンラインに

遠隔教育の最近の動向-withコロナ- ＠日本の大学

○　５月時点では、約９割の大学等が全面的に遠隔授業を実施していたが、
　　７月１日時点では、**約６割が対面・遠隔授業を併用**して授業を実施
○　対面授業のみの大学等、遠隔授業のみの大学等は、いずれも約



＠日本

オンライン授業・ハイブリッド授業
が急速に普及 ➡継続

オンライン授業＝ERTか？

出典：文科省大学分科会（第156回）会議資料（9月15日）
https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/20200914-mxt_koutou01-000009906_15.pdf

オンライン授業の現時点での課題

- オンライン授業の質をどう担保するか。
- 学生同士の繋がり・交流をどうするか。

オンライン授業を効果的・魅力的にするにはどうすればいいか？

・オンライン授業のタイプ ➡ 特徴を探る

・オンライン授業を支える理論 ➡ デザインの視点を探る

オンライン授業のタイプ

ーオンライン授業の特徴を探るー

オンライン授業のタイプ　ー時間の観点ー

同期型 （同時公衆送信）	同時双方向型・ライブ配信授業・同時配信授業 ・主にWeb会議システムを利用（動画）。チャット（文字）も可 ・対面授業と近いスタイルで授業ができる ・リアルタイムで教員と学生間で意見交換ができる ・時間の制約がある　・データ通信量が大きい（動画） ・安定して受信できるインターネット環境が必要（動画）
非同期型 （異時公衆送信）	オンデマンド型授業（録画動画配信、資料や課題配信） ・主にLMS(学習管理システム）を利用 ・学生は好きな時間に好きな場所からアクセスできる ・受信環境への負担が少ない ・対面とは異なるスタイルの授業の工夫が必要 ・一方向にならないように注意

オンライン授業のタイプ　ーコミュニケー

同期型ライブ配信授業で
先生が話すだけなら、
こちらに

一方向型	非同期型：オンデマンド型動画講義 ・時間と場所の制約を受けない ・学習の継続が難しい（修了率が低い） ・双方向性のある活動と組み合わせる必要がある
双方向型	同期型：　同時双方向型・ライブ配信授業・同時配信授業 ・時間の束縛・制約を受ける 非同期型：　LMS（Moodle等）を使ったオンデマンド型授業 ・時間の束縛・制約を受けない ・教師と学生、あるいは、学生同士の双方向のやりとりをデザインしておく必要がある。

オンライン授業のタイプ　ー対面授業との組み合わせー

ブレンデッド型	対面授業とオンライン授業を組み合わせ 同期型と非同期型のオンライン授業を組 例：反転授業、オンライン反転授業 ・教育目的に合わせて複数の形態が組み合わせられる ・オンラインしか参加できない学生がいる可能性がある
ハイブリッド／ハイフレックス型（HyFlex: Hybrid-Flexible）	一つの授業を対面と同期型オンライン授 る（同期型）➡ハイブリッド型 ＋ その授業を録画したものを、オンデマ （非同期型）＋ 学生が自由に選択＝ ハイフレックス型 ・学生がどの学習形態にするのか、自由に選択できる。 ・教員は全学習形態を念頭にデザインする必要がある。

異なる内容・学習形態の授業の組み合わせ

同じ授業を異なる学習形態で受講する

オンライン授業のタイプ　ー接続地点数と人数の観点ー

- 2地点接続

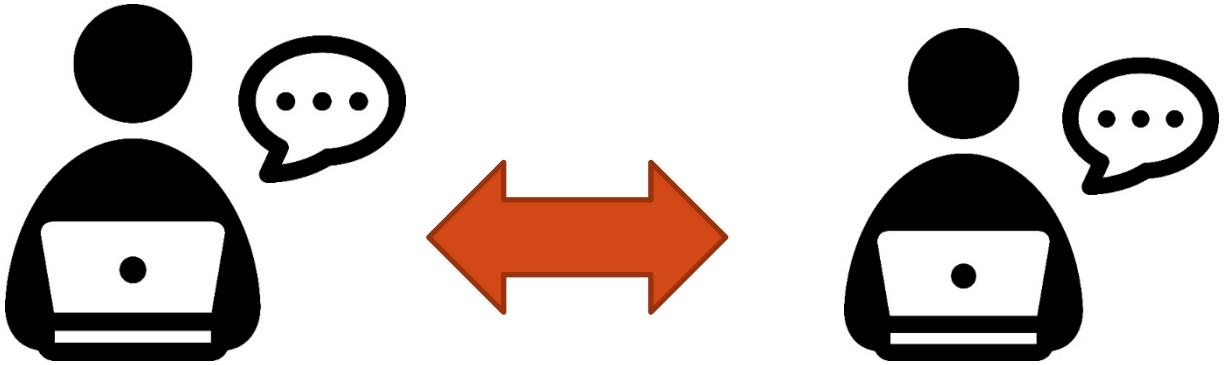
（　）組み合わせの例

Ｉ：Ｉ 型	教師Ｔ：学習者Ｌ
Ｉ：多 型	Ｔ：複数のＬ
多：多 型	（Ｔ+Ｌ：Ｔ+Ｌ）

- 多地点（3地点以上）接続

Ｉ：Ｉ：Ｉ 型	Ｔ：Ｉ人のＬが複数地点
Ｉ：多：多 型	Ｔ：複数のＬが複数地点
多：Ｉ：Ｉ 型	Ｔ+Ｌ：Ｉ人のＬが複数地点
多：多：多	Ｔ+Ｌ：複数のＬが複数地点

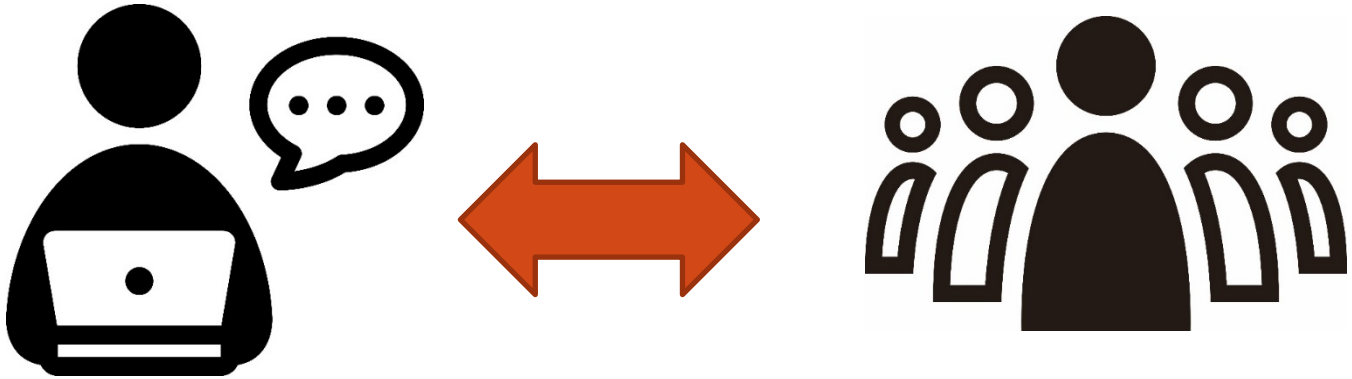
2地点接続　1対1　型



- 遠隔プライベートレッスン
- 遠隔チュートリアル
- タンデム学習（ショー・出口　2017）

同期双方向

2地点接続　1対多 型



- 専門家の遠隔セッション

  海外専門家の日本語教育副専攻の学生に対する授業

  (毛利 2017、2019)

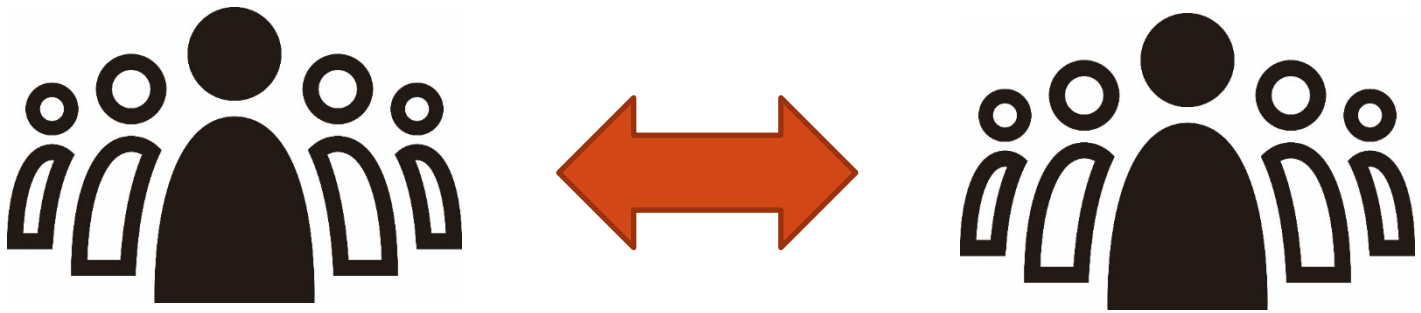
- オンライン・グループレッスン

  台北、インドの初級日本語学習者へのグループレッスン

  (藤本 2008、2011)

同期双方向

2地点接続　多対多 型①



同期双方向

・異文化間交流授業

・遠隔による日本語教育実習

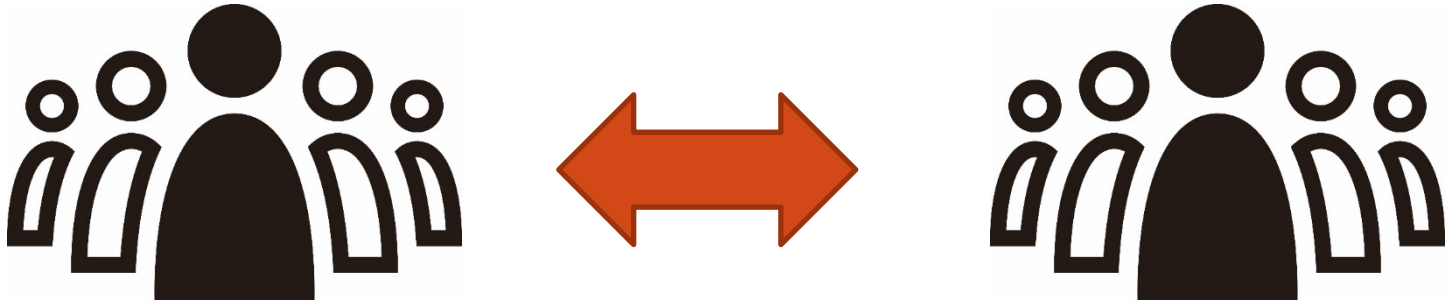
ブルネイの初級学習者に対する日本語教育専攻の学生 (瀬尾他 2019)

・複数言語の双方向グループ学習（タンデム学習のグループ版）

カカオトークを使った日本語学習と韓国語学習者の双方向の言語学習

（伊藤他 2019）

2地点接続　多対多 型②



・ハイブリッド型日本語授業

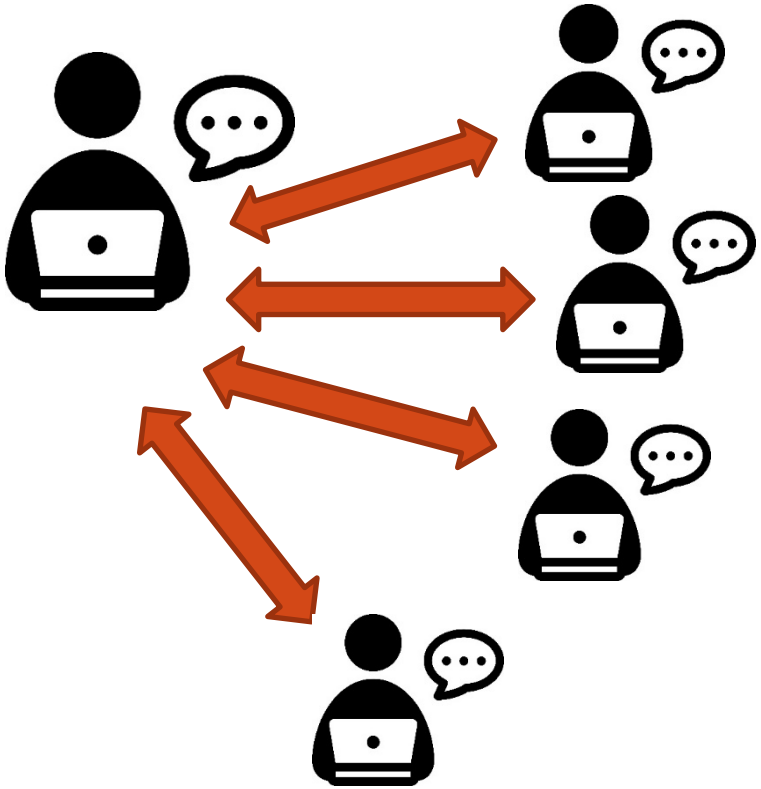
アメリカのバージニア・ビーチ市の中学・高校の日本語科目

日本語教師のいる学校と教師ない学校の合同授業（ゲイル2020）

同期双方向

多地点接続　1対1対1　型

2020年のオンライン授業
はこの形が多かったのでは？



・Web会議システムを使った一斉授業

同期双方向

・バーチャル・スクール

日本語科目がない高校、入院・長期欠席者のため
ビデオ学習+Web会議　（響 2017）

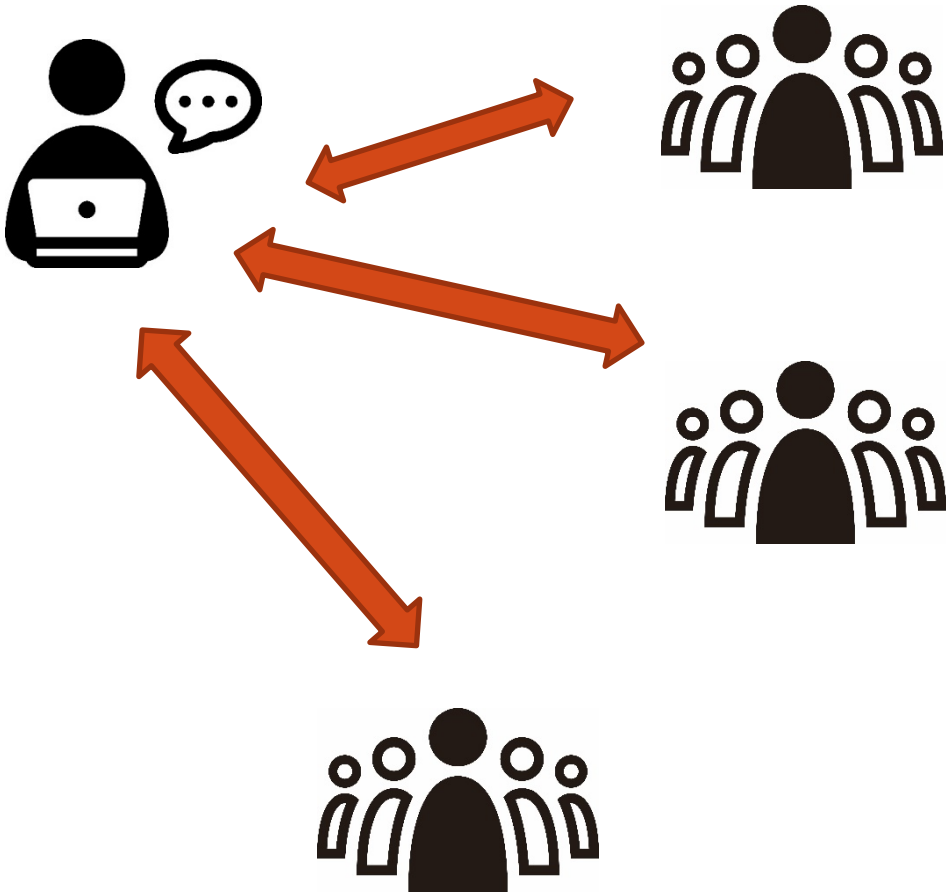
非同期一方向＆同期双方向

・MOOCs（大規模オンライン

日本語発音オンライン講座@Edex（戸田他 2017）
『JF日本語eラーニングプラットフォーム　みなと』
日本語コース、教師サポート付きコース
「みなと」を使った研修　（新谷他 2019）

基本：非同期一方向
＋同期双方向　＋非同期双方向

多地点接続　1対多対多 型

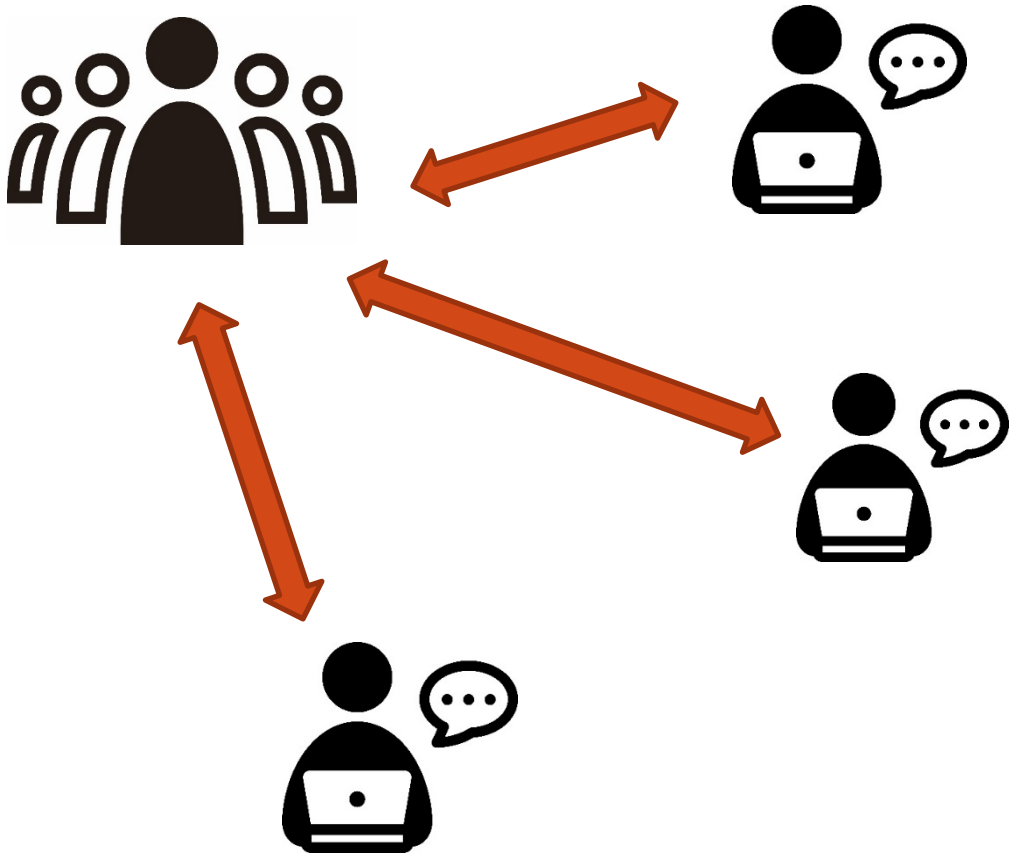


1998年に文科省が承認した
同期双方向の遠隔授業の型

＜日本語教育以外＞
早稲田大学と関西大学等の遠隔授業実験
（片岡・久保田 2001）

同期双方向

多地点接続　多対1対1型

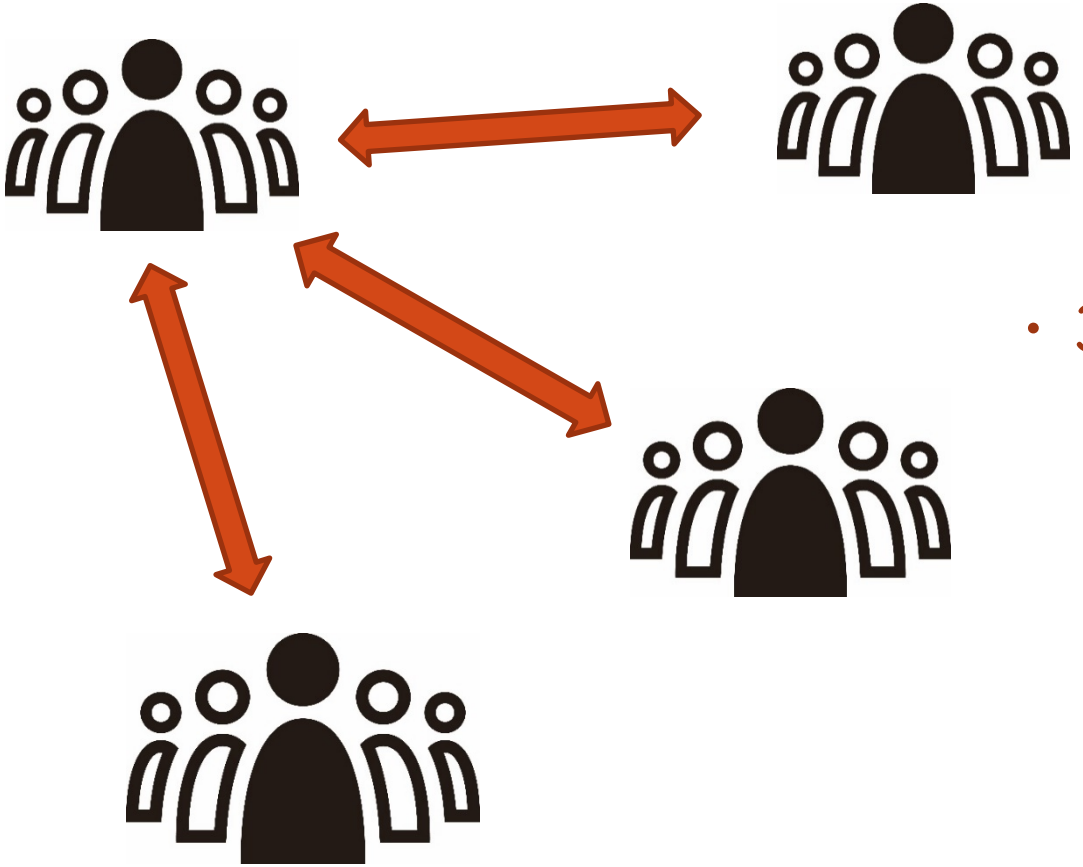


・ハイブリッド型ゼミ

対面ゼミに遠隔地の学生がWeb会議システムを使って参加　（保坂・島田　2019）

同期双方向

多地点接続　多対多対多 型



・3地点以上の交流授業

日本語教育以外の例（赤倉他 2006）

日本と海外の大学を結び英語で意見交換

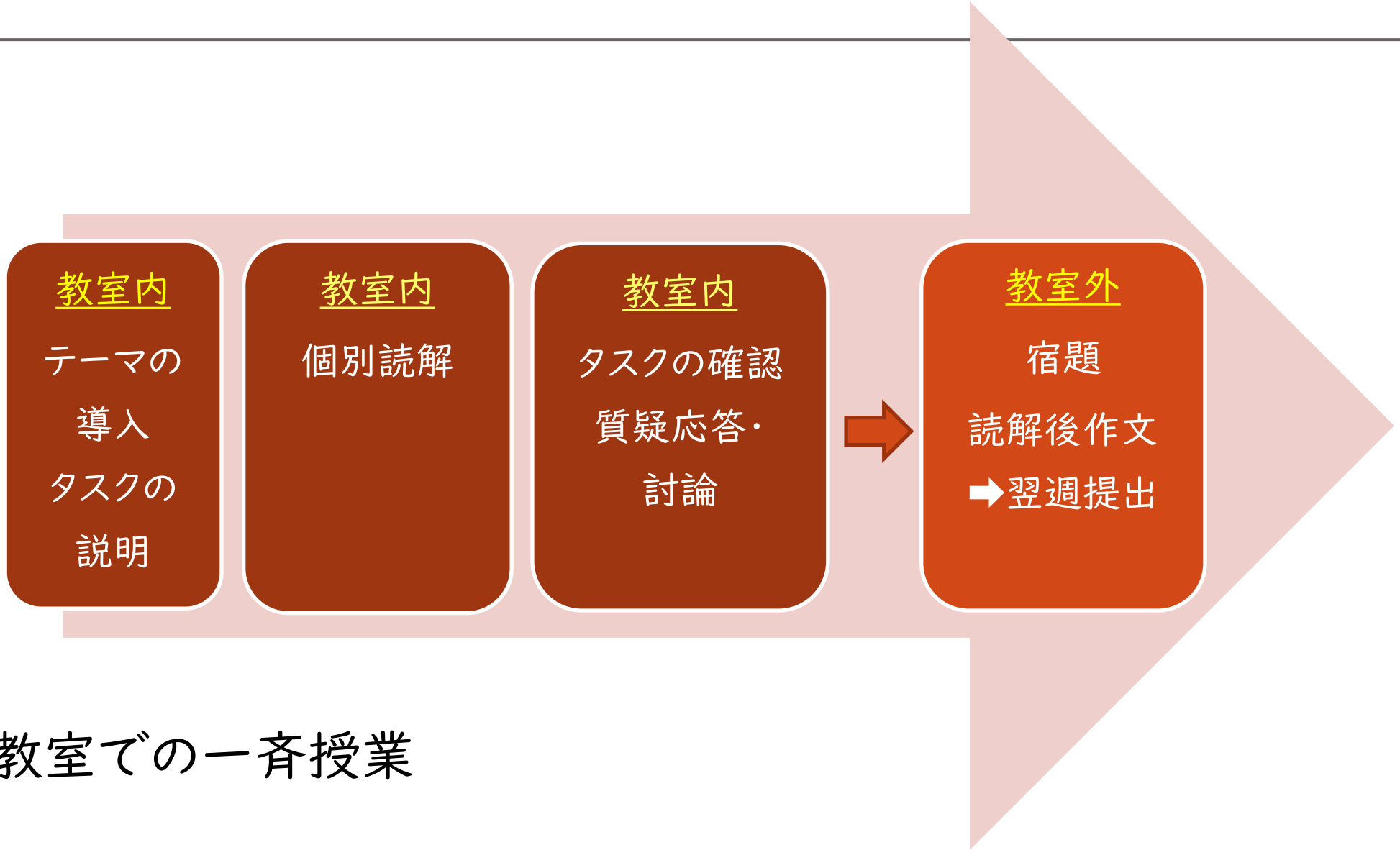
異文化間コミュニケーション

効果：2地点接続<3地点接続

同期双方向

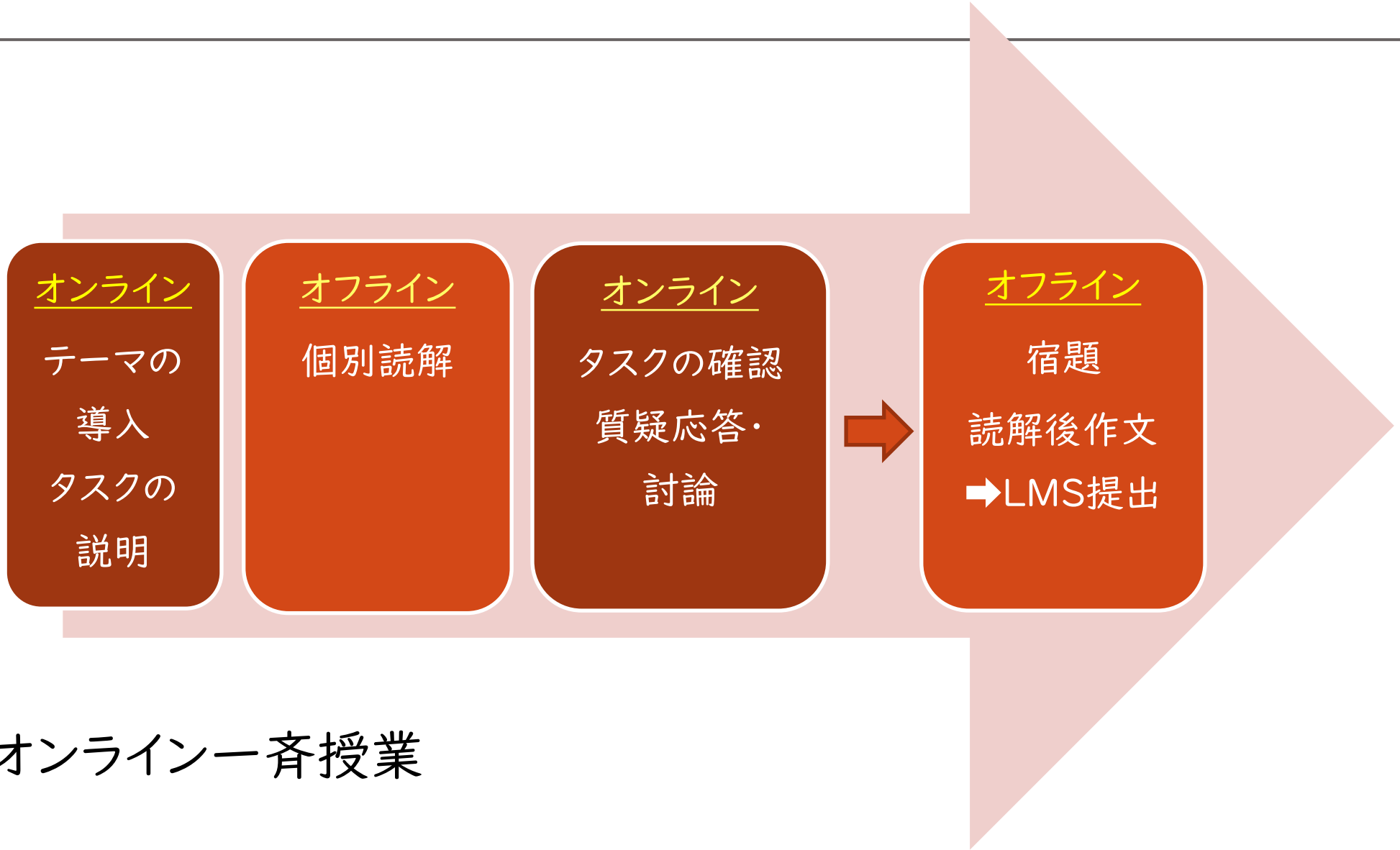
オンライン授業が
どのタイプか
分析してみましょう

対面授業（読解）のデザイン



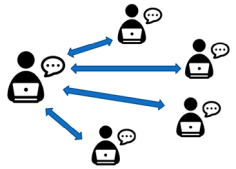
教室での一斉授業

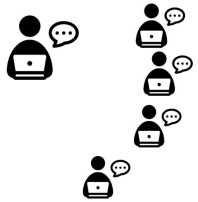
授業（読解）デザインのオンライン化

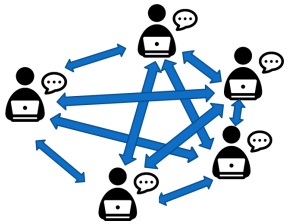


オンライン一斉授業

オンライン授業（読解）のデザインの分析







同期型
双方向
テーマの
導入
タスクの
説明

オフライン
（リアルタイム）
個別読解

同期型双方向
タスクの確認
質疑応答・
討論
（全体or
グループ）

非同期型
一方向
宿題
読解作文
➡LMS提出

多地点接続　1対1対1　型

同期双方向・非同期一方向
ブレンディッド型

オンライン授業のデザインを支える理論

➡オンライン授業をデザインする視点を探る

遠隔教育を支える理論： 同価値理論

Simonson 2000　Equivalency Theory（鈴木 2000、2012）

- 通信技術の発達した現在、遠隔教育とそうでない教育の区別するのではなく、 全ての学習経験に「同等の価値」を持たせることが重要。

- 学習の経験の様相は多様なので、「同型」ではなく「同価値」になるよう、学習環境をデザインするべきである。

＝ 対面授業をオンライン授業に置き換えるとき、対面授業と「同じ型」にする必要はない。

遠隔教育を支える理論： 同価値理論

- 対面授業とオンライン授業を「同価値」にするにはどうしたらいい？

➡ 対面授業の授業目標を明確にする。

➡ オンライン授業の特徴を踏まえて、その目標に至る道筋（学習活動や方略）を考える。

例： 学習目標： 文法項目が適切に使えるようになる

対面授業： 導入➡説明➡練習➡応用練習➡宿題（個別学習）

オンライン授業： 事前課題（オンデマンド） 導入➡説明➡練習
同期配信授業 応用練習（グループ）➡個別学習➡発表

遠隔教育を支える理論： 交流距離理論

Moore 1980? Theory of Transactional Distance

（鄭・久保田 2006、鈴木 2012）

- 交流距離（TD）とは、遠隔教育プログラムの教師と学習者間の心理的な距離感（×物理的）

- TDは「対話」「構成」「学習者の自律性」の3要素で説明。
  - ➡ 学習者の自律性が低い場合は、指導や励ましなど教師との対話が多く、コースや教材も構造化されていること（TDが小さいこと）が望まれる。
  - ➡ 学習者の自律性が高い場合は、求めない限りアドバイスをせず、自由な選択が許される学習環境（TDが大きい）が望まれる。

＝ 学習者の自律性により、授業の適切な構成化や、教師と学習者の適切な対話の量や質を決める必要がある。

遠隔教育を支える理論： プレゼンス理論

Short et al. 1976　Social Presence（社会的存在感）

（山田・北村 2010）

- 社会的存在感とは、メディアを介した相互作用において、相手がそこにいると感じられる程度
- 学習者が知覚した教師や他の学習者の社会的存在感が高いほど、学習への満足度が高い。
- 連帯感（Sence of Community）により、動機づけられ、学習が継続する。

＝ オンライン授業では、人とつながり、連帯感を強めることが重要。

授業デザインを支える研究分野：インストラクショナル・デザイン

インストラクショナル・デザイン（ID）

「教育活動の効果と効率と魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して学習支援環境を実現するプロセスのこと」
（鈴木2005）

➡ 様々なモデルや理論を集積したもの
➡ 状況に合わせて適切な理論やモデルを選ぶ
➡ ID理論やモデルは学習観によってプローチが異なる

授業目標の明確化を支えるID理論：ブルーム・タキソノミー

1956年 教育目標の分類学（ブルーム・タキソノミー）

・教育目標を「認知的領域」「情意的領域」「精神運動機能的領域」に分類

6.0	評　価	Evaluation				
5.0	統　合	Synthesis	個性化	Characterization	自然化	Naturalization
4.0	分　析	Analysis	組織化	Organization	分節化	Articulation
3.0	応　用	Application	価値づけ	Valuing	精密化	Precision
2.0	理　解	Comprehension	反　応	Responding	巧妙化	Manipulation
1.0	知　識	Knowledge	受け入れ	Receiving	模　倣	Imitation
	認知的領域		情意的領域		精神運動的領域※	

授業目標の明確化を支えるID理論：改訂版タキソノミー

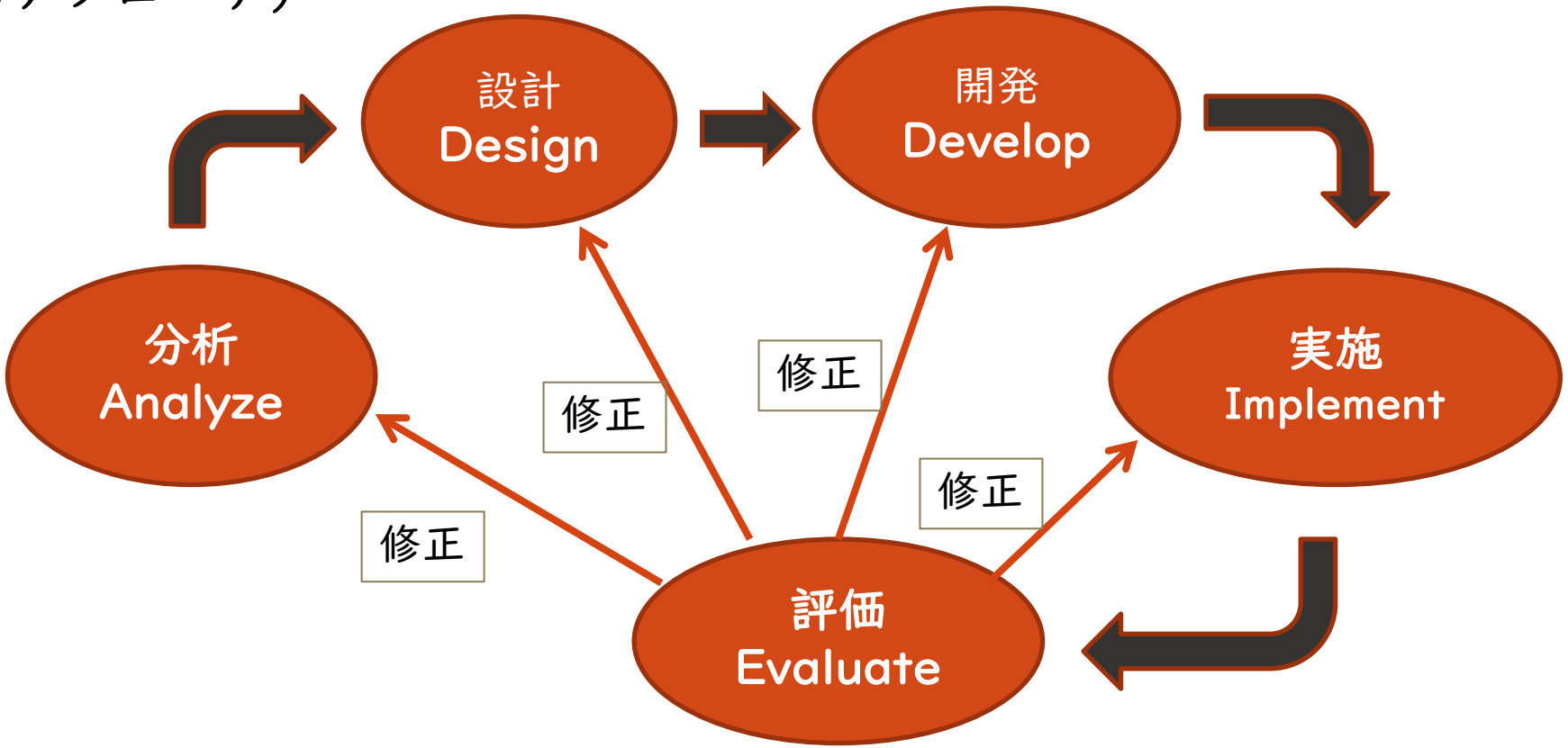
改訂版タキソノミー（Anderson & Krathwohl eds. 2001）

・ブルーム・タキソノミーの6段階の認知課程次元と，学ぶべき知識「事実的知識」「宣言的知識」「手続き的知識」「メタ認知的知識」の4つを二次元的にマトリックスで示した

知識次元	認知過程次元					
	記憶する	理解する	応用する	分析する	評価する	創造する
事実的知識						
概念的知識						
手続き的知識						
メタ認知的知識						

IDのプロセスモデル： ADDIEモデル

IDの手順を示すプロセスモデル
（システム的アプローチ）



出典：鈴木他（監訳）(2007)（ガニェ他著）『インストラクショナルデザインの原理』 北大路書房

動機づけを支えるIDモデル：ケラーのARCSモデル

学習者の動機づけを高めるためのモデル

出典：ケラー(2010)『学習意欲をデザインする：ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』 北大路書房

IDの前提にある学習観

	行動主義	認知主義	構成主義
学習の前提	知識伝達	知識習得	知識構築
学習とは	行動の変容	既有知識との関連付け	意味の変容
教育とは	教師中心	教師中心	学習者中心
学習プロセス	受動的	能動的	能動的

→ コネクティビスム
結合主義

青木（2012）『eラーニングの理論と実践』放送大学教育振興会

自分のオンライン授業を
チェックしてみましょう

オンライン授業に対する意識のチェックリスト

オンライン授業をデザインするときに、

- オンライン授業のタイプを意識したか。
- 目標の明確化を意識したか。
- 目標の種類（知識・スキル・態度）を意識したか。
- 対面授業と同型ではなく、同価値（目標を同じにすること）を意識したか。
- 学生の自律性を意識したか。
- 他の学生や教師の社会的存在感を意識したか。
- 設計の手順を意識したか。
- 動機づけ（ARCSの観点）を意識したか。
- 前提となる学習観を意識したか。

まとめ

・オンライン授業は、第3世代の遠隔教育である。

・オンライン授業の意義は「教育の機会均等・拡大」に資する点にある。

・オンライン授業をより効果的・魅力的にするために、

➡ オンライン授業のタイプ・特徴を意識すること。

➡ オンライン授業のデザインを支える理論を意識すること。

参考文献

饗庭朋子（2017）「アメリカの高校生を対象としたオンライン日本語教育の実践報告」『CASTEL/J 2017 Proceedings』, 168-173

青木久美子（2012）『eラーニングの理論と実践』放送大学教育振興会

赤倉貴子・永岡慶三・西堀ゆり（2006）「国際間の3大学を結ぶ同時双方向遠隔授業が学生に与える効果 ― 2 地点接続と 3 地点接続の比較―」『電子情報通信学会技術研究報告ET,教育工学 』106 (166), 71-76,電子情報通信学会

石田敏子（1995）「空飛ぶ教室プロジェクトー電子メールを利用した日本語教育と教師教育の可能性と問題点ー」『日本教育工学会大会講演論文集』11, 3

伊藤江美・谷誠司（2019）「カカオトークを活用した日韓交流学習ー語用論的観点からの教育実践ー」『CASTEL/J 2019 Proceedings』, 51-54

片岡昇、久保田賢一（2001）「高等教育における遠隔教育の概要とその実践 ー歴史的視点と事例研究を題材としてー」『情報研究』15, 39−70, 関西大学総合情報学部紀要

久保田賢（1996）「学習環境としてのインターネット(1)インターネットを利用した学生間のコミュニケーションー」『日本教育工学会第12回大会講演論文集』

参考文献

ゲイル久美子（2020）「バージニアビーチ市(アメリカ)の公立中学における日本語遠隔授業に関する基礎的研究ー技能別能力に着目した課題の探索ー」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要 』No.21，167-176

澤橋まゆみ・沖本奈津美・山口栄一（1995）「日本語学習を支援する試みについてー電子メールの積極的利用とWWWの利用ー」『日本教育工学会大会講演論文集』11，567-568

ショー出口香（2017）「インターネットを活用した異文化間能力育成のための日本語学習活動の実践報告」『CASTEL/J 2017 Proceedings』，188-193

鄭仁星、久保田賢一編（2006）『遠隔教育と e ラーニング』北大路書房

新谷知佳・村上奈未・森田衛（2019）「フィリピンの中等日本語教師へのオンラインによる日本語学習支援」『CASTEL/J 2019 Proceedings』，229-230

鈴木克明（2012）「遠隔教育者を支える同価値理論と交流距離理論」『第 19 回日本教育メディア学会年次大会』，27-28

鈴木克明（2005）「（総説）e-Learning実践のためのインストラクショナル・デザイン」『日本教育工学会誌』 29（3），197-205

鈴木克明（2000）「通信制高校にとっての放送教育」から学んだこと」『放送教育』54(9)，49-53

参考文献

瀬尾匡輝・本間咲耶（2019）「遠隔による日本語教育実習－日本とブルネイ・ダルサラーム国間の実践から－」『CASTEL/J 2019 Proceedings』, 87-90

藤本かおる（2008）「ブレンディッド・ラーニングによる遠隔日本語教育の実施と検証－東京・台北間での初級日本語授業から」, 日本教育工学会研究報告集2008(1), 21-26, 日本教育工学会

藤本かおる（2011）「遠隔教育における初級日本語教育での web 会議システムの利用とその考察－インドとの遠隔対面授業と日本国内の対面授業の比較を中心に」, JeLA 会誌, (11), 12-17, 日本 e-Learning 学会

保坂敏子（2020）「日本語教育における遠隔教育－オンライン授業のデザイン指針を探る」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要 』No.21, 177-188

保坂敏子・島田めぐみ（2019）「日本語教育専門家の育成のためのICTを使った主体的・対話的で深い学びの実践」『CASTEL/J 2019 Proceedings』, 41-42

見上晃・西堀ゆり・中野道子編（2011）『英語教育体系第12巻　英語教育におけるメディア利用』大修館書店

参考文献

ムーア M. G.・カスリー G.著　高橋悟編訳『遠隔教育ー生涯学習社会への挑戦ー』　海文堂

文化庁国語科（2003）『情報通信技術（IT）を活用した日本語教育の在り方に関する調査研究」
http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_suishin/nihongokyoiku_it/ （2019年9月1日閲覧）

山田政寛・北村智「CSCL研究における「社会的存在感」概念に関する一検討」『日本教育工学会論文誌』33(3), 353-362

若松茂・ジョフ・アージャー・平賀正子・藤井洋子・北田隆治（1991）「64kbps国際ISDNで日本とオーストラリアを結ぶ画像音声双方向の語学遠隔授業の試行について」日本教育工学会大会論集

Anderson, L.W., and Krathwohl, D.R. (eds.) (2001) *A Taxonomy for Learning, Teaching, and Assessing: A Revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives*. New York Addison Wesley Longman

Simonson, M. (2000) Equivalency theory and distance education. *TechTrends*, 43(5), 5-8

ご清聴、ありがとうございました。

保坂敏子 hosaka.toshiko@nihon-u.ac.jp